

最近の金融政策運営について

雨宮 正佳

目 次

1. はじめに
2. 経済・物価見通し
3. 金融政策の論点
4. 終わりに

1. はじめに

本日の講演は、三つのパートから構成されている。最初に、日本銀行（以下、日銀）の最新の物価・経済見通しを説明する。二つ目に、物価動向に焦点を当てる。現在、日本の景気は非常によいが、その割に物価はなかなか上がらない。日銀の2%という物価目標の達成には時間がかかっているという状況だが、こうした物価動向に関して着目している論点について説明する。三つ目に、そのような動向を踏まえて、金融政策をめぐる幾つかの論点について触れたい。

2. 経済・物価見通し

図表1は、2017年10月に日銀が公表した経済・物価見通しを、半年前と比べたものである。細線

が17年4月の見通し、太線が直近の同10月の見通しである。一言で言えば、景気は強く、一方物価は少し弱めということが見てとれると思う。

図表1左図の実質成長率は、17年度の見通しが+1.9%、18年度が+1.4%に対し、19年度は+0.7%とやや弱い。これには二つの理由があり、一つはオリンピック関連などの需要が一段落すること、もう一つは、この年に消費税率の引き上げが予定されていることである。19年度に消費税率引き上げの影響があることや、17年度は去年の経済対策の影響で出来過ぎという部分もあることを勘案すると、基調としては、+1%を超えるしっかりした成長が続くという見通しである。これに対して、物価はむしろ下方修正であり、17年度+0.8%、18年度+1.4%、19年度+1.8%と、徐々に上がるという見通しは変わっていないが、かなり大きな下方修正になっている（図表1右



雨宮 正佳（あまみや まさよし）

1979年東京大学経済学部卒業。同年日本銀行入行。98年金融市場局金融市場課長、99年企画室企画第一課長、2001年企画室参事役、02年考査局参事役、04年政策委員会室審議役（組織運営）、06年企画局長を経て、10年理事に就任。12～13年理事 大阪支店長嘱託。14年より理事再任により現在に至る。

（本稿は2017年12月11日に日本証券アナリスト協会で開催された講演会の要旨である。）